

<その他、取組に特徴のある事例>

○がんばっぺ！皆が笑顔で集える集落に！

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	福島県 ^{にほんまつし} 二本松市 ^{にしに} 西谷			
協定面積 10.3ha	田（95%）	畑（5%）	草地	採草放牧地
	水稻、トマト	飼料作物		
交付金額 139万円	個人配分			39.5%
	共同取組活動 (60.5%)	水路農道等維持管理費		28.0%
		役員報酬		14.0%
		その他		18.5%
協定参加者	農業者 23人			開始：平成17年度

2. 取組に至る経緯

当集落では、養蚕業の衰退による農地の荒廃化や過疎・高齢化による集落農地の耕作放棄が危惧される状況となったことから、平成17年に行政区内の耕作田を中心とした集落協定を締結し、水路・農道の維持管理活動や遊休地の解消対策、獣害の防止活動などを行ってきた。

そんな中、中山間地の耕作放棄地対策を学ぶために来訪した都内私大のゼミ研修生の現地調査実習の受け入れをきっかけに、集落が掲げる多様な担い手の確保『学校等と連携した体験農園の実施』の一環として、平成20年から年間を通した同ゼミ生の農業体験研修を受け入れている。また、ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会と連携をしつつ、県外の私立高校の米づくり体験の受け入れも行っている。

3. 取組の内容

集落内ほ場およそ10aをゼミ研修生等の中山間農業の学習の場所として提供し、田植・稲刈りといった基幹作業に留まらず、種粃の播種、育苗プール作り、稲架の設置・解体など年間を通じた作業体験の指導を行っている。また原発事故発生前はシイタケのほだ木づくりやワラビ群生地の散策なども行い、ふるさとの暮らし全般の体験ができるよう受け入れ体制作りに努めている。

このほか双方向の交流を図るため集落からも大学の学園祭に出向き、学生の成果発表の手伝いをしながら中山間農業のアピールや、地元農産品の販売などを行っている。



【学生による遊休地管理活動】



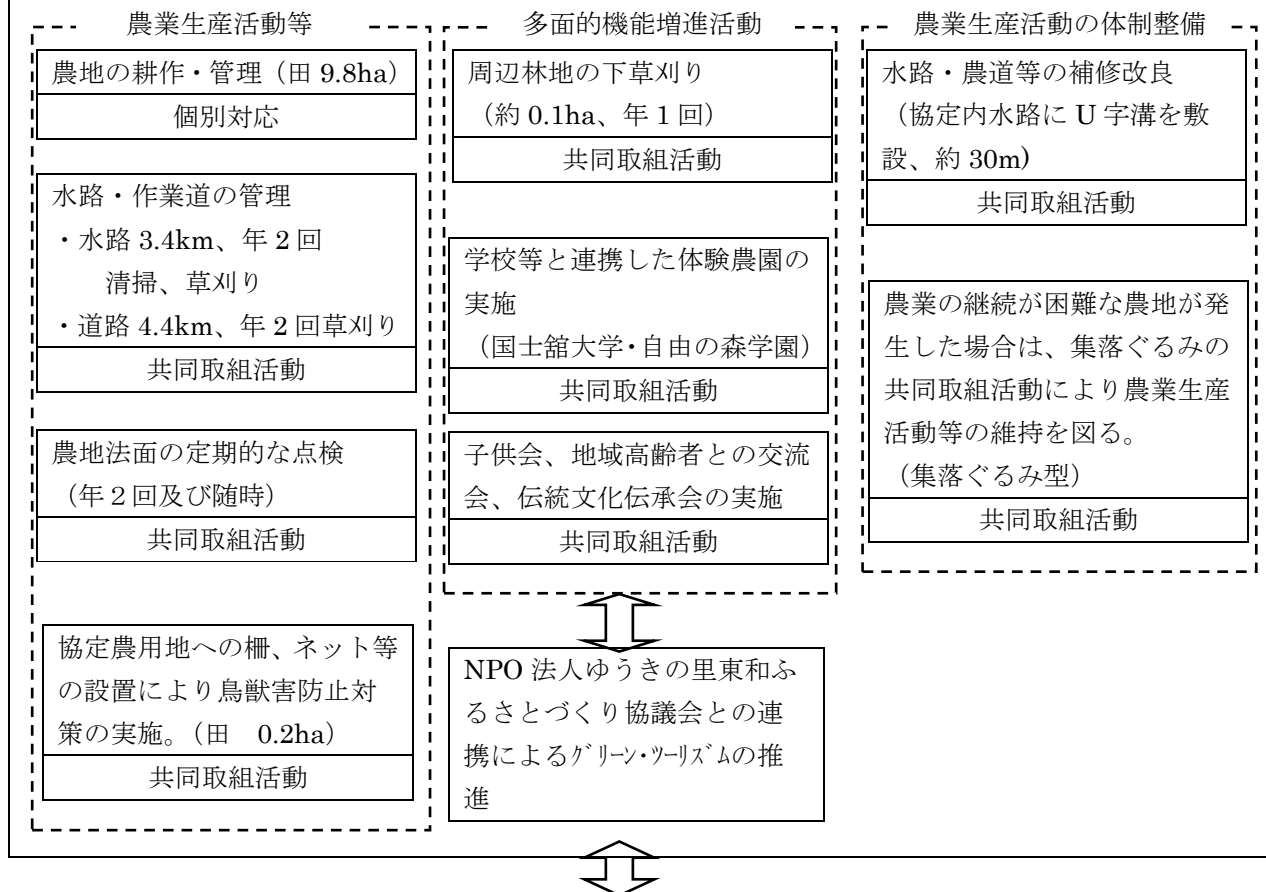
【集落総出でお出迎え】

〔集落の将来像〕

- 『LOHASな山里づくり』を目標に掲げ、環境と共存したライフスタイルを都市の住民に提供できるよう、荒廃地を復旧し自然の豊かさを感じられる環境づくりを進める。また、学生との交流で培った体験農業受け入れ・交流のノウハウを活かし、世代や性別で分断されがちな集落内交流の活性化をすすめ、農家民宿の運営を目指す。

〔将来像を実現するための活動目標〕

- 耕作放棄地解消・沿道への花植栽等により景観形成を行う。
- 集落内外の地域資源を活用した都市農村交流事業を推進する。



集落外との連携

- 国土舘大学ゼミ研修生・自由の森学園学生との交流
- NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会（地域特産品開発・販売）との連携

4. 今後の課題等

原子力災害の発生により交流事業の縮小を余儀なくされたが、大学生が集落の放射能汚染マップを作成し除染計画に携わったり、集落から学園祭に出向いて不安払拭を図るPR 活動をしたりするなどの交流は続いている。年月をかけて培った交流の芽を絶やすことのないよう、除染を行うことなどにより地域や地域生産物に対する放射性物質に起因する不安を少しでも早く解消し、再び胸を張って集落外の方々を呼び込める地域にしていきたい。

〔第 2 期対策の主な成果〕

- 認定農業者の増加 1 名→2 名
- 有害鳥獣進入防止柵の設置